

さつきの会（郡上市）

中心市街地

環境・観光

取組の背景

八幡町に住み郷土郡上八幡を愛する人約 30 名が集い町の花さつきに因んで会の名とし、八幡をより良い町にを目的に会を発足。当時のメンバーは、八幡町の名士・有力者が中心。

当初はボランティアというよりは「行政に任せるのではなく、民間も積極的に取組み、行政に提言し、協力し、活動することが八幡町の発展になる。」という町行政に対する反発心もあり、町活性化のため、町に意見を述べる政策研究団体として出発した。

取組の概要

組織は、「環境・観光委員会」「文教委員会」のほか「親睦委員会」「総務委員会」で構成され、会員数は現在約 100 名弱（最大 180 名）で、会費は月額 1,000 円。第 1 戦で活動に参加する会員は約 30 名。残る 70 名は会費のみの後方支援型参加者。

会長は、20 年ほど前から活動に参加し、長年文教委員会委員長として活躍。教員 O B。

取組の内容

発足当初、町全戸に B 4 サイズの「かわら版」を配布。内容が町行政に対する批判もあり、町行政にその声は旨く伝わらなかった。

その後「さつきの会の目的は八幡町の発展にある」「八幡町は水のまち」と原点に帰り、圧力団体にならないよう、「町行政と共に協力しながら活動提言をしよう」との動きがでてきて、会の目標は、「八幡町の恵まれた自然環境を守り、吉田川の水質保全や観光地にふさわしい町並みづくりを行うことだ」と活動に変化が出てきた。

会の活動は、水の問題、観光などについてどのようにとりくむか皆がアイデアを出しあい、これならやれるとなったら実行している。

「環境・観光委員会」は、吉田川の水質保全を中心に、河川の清掃、水質汚染についての資料提供、町民への啓発活動、水舟の設置、島谷用水に錦鯉放流、吉田川沿いに花壇・ベンチ設

置、城山にモミジの植樹等を実施。

「文教委員会」は、水に関する作文、ポスター展の開催、講演会の開催、各種文化団体活動への支援、伝統文化保存活動への補助、現在約 800 冊を超える水に関する書物の寄贈（さつき文庫）を実施。

「総務委員会」は、毎年、多くの大学教授・学生、マスコミ、まちづくり団体等が会のとりくみについて取材に訪れており、その対応を行っている。

また、過去の代表的な取組は、島谷用水へ「自然水族館」を設置した。当初に放流したのはコイだけだったが、実際川にいる魚が泳いでこそ“自然”水族館だということになり、後からアマゴやイワナを放流した。

島谷用水沿いの親水遊歩道の整備は、観光客より町の人たちに散歩して欲しいという気持ちで整備した。

また、吉田川八幡大橋下の「鮎飛床止め」という堰堤、小駄良川河口の堰堤などは、魚が自然に遡上できる堰堤を作って欲しいと漁協とともに行政に要望し実現した堰堤である。



鮎飛床止め

成果

会の地道な取組により、「八幡町は水のまち」という意識が、住民にある程度のところまでは浸透してきたと考えており、初期の目的は概ね達成した感じはしている。

成果の要因

財源を全て会員の会費からまかなっており、できる範囲で活動を行い、行政に依存しない体制が確立されている。

また、当初のメンバーが地元の有力者たちであったように、自ら考え自ら実践できる力を持ったメンバーが中心となって会を運営してきた。

今後の課題

最大 180 人に達した会員は、現在 100 名を切っており、参加者の減少が課題。

会としては新規入会を積極的には行っておらず、会の平均年齢は、65 才を超えており今後の活動に支障が出てくることは否めない。

一部には、初期の目的は達成できたことから会の解散の話も出てきているようだが、他のまちづくり団体との連携・統合も視野に入れつつ会のあり方・方向性を検討していく必要が出てきている。

行政への期待

県には、観光面でのバックアップを期待する。県内各地を結ぶ広域的な観光PR、白山信仰の世界遺産登録など市域、県域を超えた観光について市とも協力の上取り組んでいただきたい。

水のまちとしてとりくんできたが、最近、森林の荒廃が著しく、人工林が多くなり、山の保水能力が非常に低下している。水のもとには森林にあり、森林のあり方について県として積極的に取り組んでいただきたい。

この人にお話をうかがいました！

さつきの会 会長 古池孝文さん

調査日：平成18年11月2日（木）

調査者：中濃振興局中濃事務所 森